高瀬川流域

高瀬川は、槍ヶ岳の千丈沢、天上沢に源を発し、大小の支川を合わせながら、高瀬ダム、七倉ダム、大町ダムを経て、篭川、鹿島川を合流して大町市の扇状地に至り、安曇野を貫流。安曇野市押野崎で犀川に合流します。

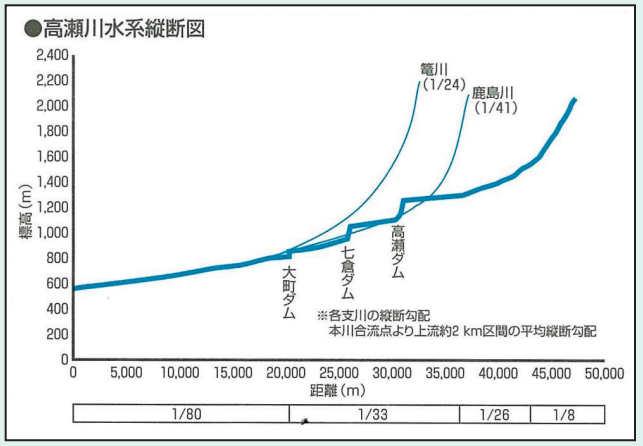
流域の大部分が風化しやすい花崗岩類で占められ、しかも水源部の山稜は露出岩が分布。錯綜する断層の影響も受け、山腹崩壊が進んでいます。温泉作用による渓岸侵食も各所でみられ、降雨のたびに膨大な量の土砂を生産・流出し、土砂災害の危険を高めています。

高瀬川流域における直轄砂防事業は、昭和23年に鹿島川において開始され、その後、昭和29年に本川で、41年からは篭川でも工事が行われています。

●高瀬渓谷

●犀川と高瀬川合流地点

●大町ダム



高瀬川流域と管内図で取り上げた砂防施設